放談会

卒業はしてないけれど

われらが生涯の最良の日々

十二回生 石川 忠志
十五回生 赤羽 隆夫
十五回生 高橋 景一
司会 十四回生 柿崎 眞吾
（会誌編集人）

司会　そろそろ始めましょうか。赤羽さんは少し遅くなるようです。今日は卒業はしてないけれど、本会のために格別ご協力いただいてきた方々に来ていただきました。私は父親の転勤で千二小は六年生の一学期まで、卒業は横浜の小学校です。赤羽さんと私は入学しましたが、石川さんと高橋さんは入学も他所のようで、父上の転勤でやむなく転校して行った方ばかり、千里山住宅は、郊外に安住の地を求めて入植した人と、転勤者と家族のために住宅建設された側面があり、文鳥族と鶯族の混合住宅地でしたが、今日は後者の方ばかりで、**忘れられない思い出と、**後半は**最近の話題から**感じていることなどの放談会を設営いたしました。

忘れられないことなど

司会　南校舎時代は中学受験までまだ間があり、遊び放題の年頃でしたから懐かしいですよ。

石川　私が転校して最初の教室は、二階のいちばん駅に近い方の部屋でした。

司会　私はその時二年生ですから、石川さんの真下の部屋。昭和十三年は、この四人が南校舎の中にお互い知らずに一緒に居たんですねー。

石川　五年生になって北校舎に移りましたが、南側が廊下で陽当たりが悪く全体に陰気な感じがしました。

司会　言葉の問題はありませんでしたか？

三人　千里山の人達はいろんな処の言葉を聴き慣れていたからか、冷やかされた覚えはあまりなかったです。お二人には千二小はサンドイッチの中身のようなものですね（笑）

石川　私は昭和十三年四月から十五年の三月まで、四年生と五年生と在学しました。

高橋　私は昭和十三年十二月から十六年の十二月まで、一年生の途中から四年生の途中まででした。

司会　石川さんは昭和四六年の千里山会旗揚げの時からのメンバーで、平成六年の復活当時の会の立ち上げの頃は常任幹事を務めていただきました。

石川　同級の福山君と、柿崎君との縁ですよ。それに千里山と千二小はなんとも懐かしい処ですものね。

司会　高橋さんは入会早々二〇〇〇年の記念大会に特別講演をお願いし、その後も原稿でご協力頂いてます。

高橋　支那事変から日米開戦までのまだ小学生らしい生活が送れた頃ですね。千二小の学年会には参加するのが楽しみで、できるだけ毎年参加してます。

赤羽氏が現れる

司会　早速ですが赤羽さんが在学されたのは？

赤羽　千里山幼稚園から入って、千二小は昭和十三年四月から五年生の途中の昭和十七年七月までした。

司会　今日は会の運営でお世話になってきた方々で、

石川　東京へは元の小学校へ帰ったので、千里山弁に変わってましたから笑われましたよ。

高橋　東京へ帰ったときはやはり言葉で笑われました。軍国主義の盛んな小学校で、皆竹銃のようなものを持たされ、一人ずつ号令が掛かると声を出して撃つ真似をするんですが、東京の子は「ドーン！」と言うんです。千里山では「デーン！」と言いましたからその度にそれが出る。皆も先生も笑うんですよ。（笑）

赤羽　一年生の受持の杉浦先生は、入学後最初の授業の朝「勉強セント落第サセルデーッ。モウ幼稚園トチヤウンヤサカイ」と言われたのです。その大阪弁丸出しのド迫力の凄かったこと。落第なんて！と震え上がったもんですね。いまでも思い出します。

高橋　父が東京から関西へ来て最初困ったのは、借りてくる→カッテクル、買ってくる→コーテクルでした。

司会　私の母も最初魚の名前が違うので面食らったそうです。あの頃は肉より魚の時代ですから。

石川　千里山では溜め池の魚釣りを覚えました。

赤羽　僕はボテンと赤ん腹（イモリ）ばかり。気味の悪いイモリから針をはずすのは恐ろしかったですね。利口な鮒は釣れたことは一度もなかった。でも野山が

多かったから楽しかった。冒険ダン吉のつもりになって・・・。今も本持ってますよ。のらくろの時代でもありました。

司会　そう。日本人が犬、満州人が羊、支那人が豚、ロシヤ人が熊でした。豚は可愛そうでしたね。いつもバカにされて。（当時の国名を使いました）

石川さんとは隣同士で犬の飼いっこをしましたね。お宅のは耳が立っていてゴロウ、うちのが雑種のタロウ。それぞれ東京と横浜で戦争中に死にました。

石川　三角点がよかった！　大阪市内が一望できて、大阪城がひときわ高く聳えて。

高橋　伊丹の飛行場で来日中のヒットラー・ユーゲントが模型飛行機のデモンストレーションをやるというので、何人かで自転車に乗って見に行きました。遠かった記憶です。ガソリンエンジンを使ったのが途中で墜落しました。

赤羽　冬の寒い日に大きな日の丸の旗を持った裸の変なオジサンが来たでしょう。「全身顔だと思えば寒くない、ワッハッハー、ワッハッハー」と言って、運動場でデモンストレーションをした。でも、顔には寒さを感じる痛点が少ないが、カラダにはたくさんあるから「全身顔だと思え」というのは非科学的なヤマト魂でしたね。（全国廻っていたみたい）

高橋　駅の向こうで砂金の模擬採取の実演を見物したのを覚えてませんか？（皆覚えてる）

石川　噴水へお米を持って行くとザラメをかけてガスバーナーでドカーンと物凄い音をさせ、膨らんだ甘いお米のお菓子にしてくれる。（皆行きましたねー）

司会　夜中オシッコに行くと便所に赤マントか青マントが出るという話が流行って結局出なかったけど、しばらく毎夜脅えたことがありました。

石川　忘れられないのは、枚方の火薬庫の爆発。床下から突き上げてくる感じでした。

全員　凄かった！あれは休みの日だったでしょう。

石川　当時、第五列という言葉があって、これは第五列の仕業ではないかと大人達が話してました。あの頃贋の五円札が出てこれもきっとそうだと言ってました。（第五列：敵国に紛れ込んで味方の軍事行動を助ける組織、第五部隊とも。三省堂国語辞典より。編集部）

司会　毎月「体育デー」があった。デーの意味が解ったのは卒業してからでした。（笑）千二小はハイカラだったんですね。大戦が始まった頃はなくなりました。

皆さんは昭和十五・十七年に千二小を去られてから、大戦のさなか転校先の小学校、旧制中学からお三方とも**旧制高等学校**へ進まれました。石川さんは最後に近いフルタームの卒業生ですが、お二人は旧中四年生から受験した最後の生徒で、残念ながら学制変更で途中から今の新制大学に移行となりました。

惜しまれる制度でした。**予科制度**とともに、しっかり人生を考える期間を失ってしまったと思います。

高橋　同窓会（東京府立高校・中高七年制）も後が少なくなり、小さなものになりました。

石川　私は水戸ですが、赤羽さんの松本は、全国の記念館になっているのでは？

赤羽　昔の校舎の一部が残っていて、そこが全国の旧制高校の記念品を集めた博物館になっています。

高橋　語学の時間は豊富でした。第二外国語もです。そうかと思うと講義を放っといて、教師がバッハやモーツアルトのことを夢中になって話すのを聴いたり、教師との人間としての接触があったように思います。烈しい戦争末期でしたがリベラルが残っていました。

司会　さて後半は折角各界の専門家が揃っているので、最近の内外の話題から一つ宛お願いします。

最近の話題から

司会　それぞれの専門分野から、内外に様々なことが起こっていることへの感想や意見を聞かせてください。

高橋さんには、これまでドリーの生と死に因み、クローン動物からクローン人間のお話までを分かり易く解説していただきました。三年前フランスのクローン人間誕生については、作り話の可能性が極めて高く、この「生殖的クローニング」の信憑性を厳しく批判されました。その後、この話が科学界でも話題にならなくなった矢先、今年の一月韓国で世界を驚愕に陥れた**論文捏造**の大ニュースが発表されました。

世界で初めてヒトクローンES細胞を作ったソウル大学の黄（ファン）教授の論文が虚偽だったんですね。ところでESの訳語はなんですか？

高橋　embryonic（胚性）stem（幹）cell（細胞）です。以前お話しましたように、人間から卵子を採取し、そのDNAを入れ替えるという手法で、細胞分裂を始めた胚を「子宮に戻して」クローン人間作りが考えられるのですが、世界の科学者は技術的には可能でも、倫理的にあり得ないことと考えています。胚を「子宮に

戻さないで」人になり得る可能性を持った卵子や受精卵を使って、即ちヒトクローン胚からさらにヒトES細胞まで作って**医療に役立たせると限りない可能性**を生み出せるんです。このクローンES細胞づくりに成功したのが一〇〇%虚偽であった訳で、その影響の大きさは計り知れません。韓国としても生命工学先進国の神話が崩れてしまいました。

司会　期待されていた医療分野はどんなところです？

高橋　そうですね。さしあたり、治りにくいパーキンソン病、糖尿病や白血病、それに臓器移植再生の分野は大きいと思います。また考えられる**経済効果**も絶大なんですね。

司会　論文捏造のスケールも大きいですね。

高橋　科学の世界では**史上最大級のスキャンダルと**言ってよいでしょう。少し前にアメリカのベル研究所でノーベル物理学賞受賞確実といわれたシェーンという若いドイツ人による大規模な論文捏造がありました。このシェーン事件が史上最大といわれてきましたが、それ以上かもしれません。

　いろんな動機による捏造の歴史があります。あのメンデルでさえ、イギリスの近代統計学の父と言われるフィッシャーによれば、実験結果が遺伝の法則の中でランダムな掛け合わせから期待される値に比べて「きれい」すぎ、結論を導くためにデータの選別が行われた可能性が大きいといいます。ニュートンの計算にも、測定値が理論から期待される値に合いすぎていると思われる点があります。これらは自説を強調するために有利なデータを採用したのでしょう。当時はデータそのものの客観性については現在ほどきびしい基準が存在しなかったという事情もあります。しかし、人類にとっての偉大な貢献であることに変わりはなく、人倫にもとるような悪意ある行為ではなかったのです。

　最近は功名心に加えて私利私欲が入ってきたと思います。韓国ではこの「国民的英雄」に対して大統領が肩入れし一〇〇億円以上の研究支援をしてきました。世界的な研究拠点となる特別のセンターも作ったりしました。

　先ほど、シェーン事件以上かも・・・と申しましたのは、論文捏造の外に、黄氏の場合、バイオエシックスといいますが**生命倫理**に大きく抵触する問題点が明らかになりました。世界各国では生命倫理の面から、研究に厳しい規制を布いています。

　ES細胞を作るには健全な卵子が必要ですが、それはいわゆるインフォームド・コンセント（医・説明と同意）のもとに、ボランティアから提供されたものでなければならない。このため入手は困難で、先進国の研究室では一年に数個使えればよい方だといわれています。ところが黄氏の場合を調べてみると、１３０人くらいの女性から２０００個もの卵子を採取していて、その中には、貧しい女性から金銭で買ったり、自由意思かどうかが疑われるかたちで研究室の女性から提供させたりしたものが含まれていました。また何人もの女性が卵子採取の結果、健康を損ねたとも言われています。

　これでマウスでは開発済の技術が人間でも作成可能という前提が崩れて、ES細胞の手前のヒトクローン胚のところまで戻りました。

司会　スポーツ選手のドーピングでも、金メダルの栄誉だけでなく、選手が生涯生活に困らない国もある。

赤羽　ガセネタのインチキメール事件なんかは、功名心からバレることが判っていてもやるんですね。

高橋　日本の石器を埋めた考古学の事件、これはアマチュアーでしたが、いずれバレる点では同じですねー。

石川　一方のクローン人間づくりの話になりますが、人類もそこまで来たか・・・と考えてしまう。優生的な秀れた人間を残したい保存したいという欲望は昔からあったんですね。ナチスやソヴィエトなどで。当時はまだ技術が及ばなかったから、やったのは「秀れた人間の囲い込み」ですよ。

高橋　優生学の問題ではドイツがいちばん激しいことをやった。アメリカでもイギリスでも信奉する科学者が女性を集めてレクチャーまでやったんです。

石川　日本では、戦争末期軍部と文部省が或る会議を開いて、このままでは日本は必ず負ける。どんどん戦死して日本の頭脳まで無くなってしまったら、日本の再建はできない。海兵どまりの人達は戦地へ盾となって行ったけど、海大へ行けるような逸材を海軍経理学校あたりへ集めた。予備学生（学徒動員兵の中から将校候補生に選ばれた者）の中からも飛び切り優秀な者を同じように集めたのも、種の保存本能からでした。戦後それらの人達から優れた経済人が輩出しましたが。

司会　動物や人間の生命の話をしていると尽きるところがありませんね。高橋さんにもう一言お願いします。

高橋　畜産や医療に役立つクローン動物の創出はすでに始まってます。牛、豚、羊、良質の食肉づくりでは、

例えば牛などご存知のとおり何百頭と作られております。優秀な競走馬、稀少種動物絶滅防止等の種の保存、それから黄さんの犬の成功は認められています。

猿と人間、霊長類はまだできません。大変難しい。

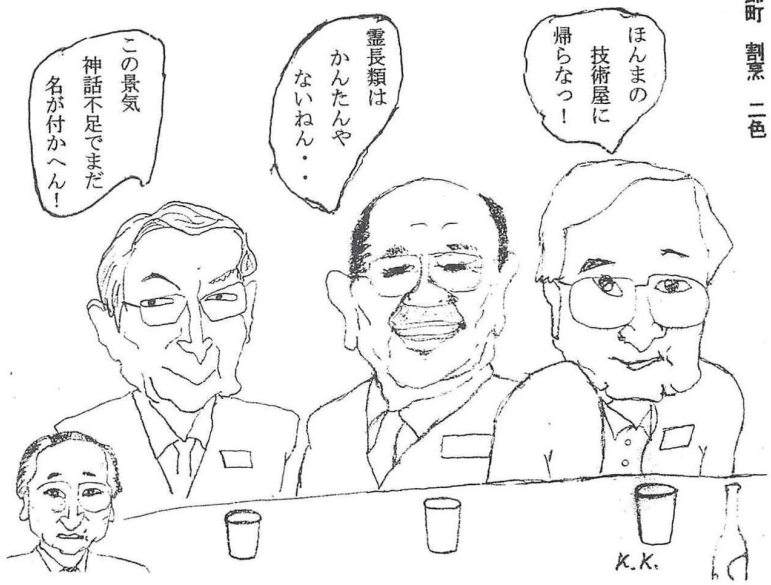
最後に、研究に受精卵など**倫理的に問題のある細胞を用いることなしに、成人の細胞から万能の幹細胞を作り出す研究が真剣に行われています。**

さらに、変わってきた潮流として、普遍的な倫理としての人権の意識が戦後特にヨーロッパで進んできたことです。人権の面から研究への規制の最もきついのもヨーロッパです。アメリカは国がヒトクローンに関係する研究などには資金を出さない。日本は再生医療などのためにクローン胚の基礎研究だけは容認というところです。

司会　論文捏造が世界を駆け巡りましたが、国内では**耐震偽装**という未経験の事件が、マンション住民、ホテル経営者、建設業界を震撼させました。急に顕在化しましたが根が深いとすると、専門家の石川さん、ぜひこのお話を聞かせてください。

石川　由々しき問題です。

二〇〇六年二月二四日
神田錦町　割烹　二色



倫理感の薄れと、仕事のやり方にプライドが感じられなくなってます。それが根底です。

私達の若い頃は、自分で図面を書いて、構造計算も自分で計算したり、最後に字も自分で書いて仕上げました。人間なんて馬鹿なもんで、出来上がったものが可愛くなっちゃうんですよ。「これに間違いがあってたまるか」という気持ちでしょうね。

司会　以前高橋さんの話で、ミツバチでも記号でなく名前をつけると殺せなくなると言ってられましたね。

石川　通じますね。昭和三九年の東京オリンピックのちょっと後から、構造計算が電算でいいということになった。方々の技術者や建設会社がソフトをつくって建設省の外郭団体の建築センターへ持っていくと、「よろしい」とお墨付きが貰えるということになる。

そこで構造計算屋さんは、インプットの数字だけの一覧表を作って、パンチ打って、夜中のうちに電算機が計算してくれる。技術屋として自分が全部やりましたという感じがなくなってきたんです。

デザインの方はつい最近自動製図ソフトができるまでは、自分でやりました。そこではまだ自分で書いた図面に愛情もあった。

構造は一足早く電算で計算も製図も数量計算もワンセットで作っちゃった。

確認申請がいま問題になってますね。もとは審査の相手は実際に技術者の建築主事という肩書きを持っている人が、それは審らかに見るんです。本当に審らかに。建築基準法上は確認申請を受け取ったら三週間中に認可しなさいと書いてあるんです。それは死文ですよ。大概は一ヶ月半以上かかりました。

まさに、**審査をして確認**していたんです。

赤羽　住宅金融公庫の融資物件に限っては実地検査が義務づけられています。アメリカの個人住宅は建築中に役所の検査が入ります。しかも検査のねらいが違う。注文主は素人でしょう。だから専門家の検察官が手抜きなどをさせないように監視に来てくれる。日本では斜傾制限とかの建築基準法違反がないかどうかしか見ない。

司会　近所に一００坪の土地の家が売られ、その土地に二軒建つことになり、まず一軒の棟上げが終わりました。素人の私でもこれはひどいニアミス住宅ではないかと思いました。そしたらその後工事が止まったままで、そのうち取り壊しが始まったんです。隣家は大

臣経験者で抗議されたんでしょうか。

石川　きわどい工事をやってくれる業者のところへは、いけるぞとばかりそこへ行くんです。建蔽率は役所は見てダメなんて言わないですね。最近の事例では周辺住民がオカシイと騒ぎだして、やっと動くのが多いんですよ。

赤羽　日本では役所の検査官は全国で二千人しか居ないそうで、受付割合から一人当たり年間六百件になる。できる訳がない。二万人位要りますよ。

高橋　経費削減ばかり言ってるから、ますます民間に任せばいいとなってきていませんか？

石川　**今回の耐震偽装事件は、皆さん想像のとおり、企画販売、設計、建築、三業体凭れ合いなんです。**

仙台宮城沖地震がもとで、昭和五六年の耐震規制で新耐震基準ができましたが、その前から「常識値」というものがあるんです。例えば単一面積あたりの鉄の量というものは、大体ある水準に入るものなんです。

高橋　鉄というのはそんなに大きなコストを占めるんですか？

石川　そんなことはありません。あんまり値上がりしてないし、ただ規模が大きくなると比率は少ないけど金額が大きくなる。十何階のマンションになると㎡当たり十kg浮かしても大したお金になる。

高橋　鉄でケチっているということになると、他でもやっていることになりませんか？

石川　そう。配管を本来もっと太いのにするところ、少―し細いものにしたりとか・・・。

司会　金融機関のように、買い主が判断しやすい「格付け」を建設三業体にもできないんでしょうか？

石川　ひと頃はあったんです。規制緩和で、誰でも官公庁工事ができるようにランク付けを外したんです。それは良いのか悪いのか、誰にでもできることになると一社当たりのお金の回し方が少なくなる。そこで談合問題が起る。

赤羽　実際、現場監督なんていう人は、経験上オカシイと思う筈ですね。

石川　建てる技術屋さんどか、設計する技術屋さんとかは、根っこには技術屋根性があるから、元来そうは間違いはできないし、しないものです。矢張り販売業者、デベロパーその辺りが幅広くいろんなことを考えるから、その人達に弱いのが設計と施工の建設業者なんですね。

司会　千里山の駅前公団住宅も建て替えになるそうです。早いもので五〇年が経ちました。

石川　おそらく老朽して危険という構造問題というよりも、今様の新しい設備を取り付けたり持ち込めなくなって取り壊しになるんでしょう。コンクリートの建物は簡単には倒れません。神戸市役所がペシャンコになったのは大きな設計ミスで、大小の亀裂が入ることはあっても倒れるものではありません。修復は可能です。資産価値問題は別ですけどね。

司会　政府も今年は耐震元年と銘打って売り主・買い主双方に呼びかけています。売り主の耐震基準の遵守と買い主の自己責任の徹底を言うだけでなく、国の管理責任の徹底充実こそ肝要ですね。耐震偽装問題はこれくらいにいたしましょう。

司会　最後に赤羽さんには、長いトンネルを抜けて、デフレ脱却・好景気到来の声が本物かを聞かせてください。過去三回講演や執筆でイソップ物語の「太陽と北風」や「多重債務者」石川啄木の話を面白く聞かせてもらいました。

日本経済は慢性的な需要不足の状態に悩み、巨額の国の借金が強力な「北風」になった。ところで債務の上に「多重」が付くのはなんですか？

赤羽　過剰債務に過剰設備と過剰雇用、私はこのデフレ三兄弟による苦悩を**トリプル・ハラスメント**(三重苦)と呼んでます。

司会　むかしトリレンマ（トリプル・ジレンマの略）という言葉がありましたね。

赤羽　ええ、ありました。これまでの国や企業の苦悩は、なんと言っても**借金の過剰**が出発点でした。

司会　ところで世の中デフレ脱却と好景気到来が喧伝されてます。赤羽さんは小泉さんの**「不作為経済政策」**が利いていると新聞や雑誌などで書いておられますが、解りやすく話してください。小泉さんは「じっと手を見て」いただけではないでしょう？（笑）　それとも「勘」ですか？

赤羽　小渕さんまでの内閣では、（大型景気対策を）やればやるほどおかしくなった。だから、ひょっとしてこれまでと反対のことをやればいいんじゃないかと考えたぐらいのことは想像できます。

医源病（医者の医療が原因で病気が良くならなかったり、かえって悪くなる）というのがあるでしょう。

借金で景気対策をやる、何兆円と使う、使っている間は景気が良くなりますね。しかし工事が終わった後は借金返済が始まる。その結果折角稼いだ所得のより多くの部分を借金の返済で取られてしまう。だから消費が低迷する。

二年ほど前、日経の「私の履歴書」でガルブレイズさんが、**不況の原因は貯蓄超過による需要不足**が原因だと書いてました。ケインズさんも昔そう言ってます。

司会　借金を返済するのは貯蓄なんですね？

赤羽　「借金は負の貯蓄」です。だから借金返済は負の貯蓄を減らす。つまりマイナスのマイナスでプラスの貯蓄になる。もともと貯蓄超過で需要不足なのに、さらに貯蓄超過を激しくしてしまった。モルヒネ中毒みたいなもんですよ。

司会　モルヒネ患者やアル中には、薬やお酒を飲ませない、与えない、これしか無いんですね。

赤羽　これまでいつか良くなるだろうと思って繰り返しやってきたが却って悪くなる。それなら人間には**自然治癒力**というものがあるから、これに期待してしばらく辛いけれども何もしないで我慢するしかない。不作為という政策？にならざるを得ない時期に来ていた。

高橋　竹中氏などの知恵でやっているんですかね？

赤羽　そうは思いませんが、不作為が結果オーライとなったことは考えられます。

経済も生命体と同じで、システムの不具合を自ら是正する力が内在しているんです。最近ではパソコンでも自然修復力が働くように仕組まれていますね。

司会　さきほどのバブル三兄弟であるトリプル・ハラスメントには、民間は、リストラの敢行、設備の棄却、不良債権の処理（低金利に助けられてのことですが）等の努力をしてきました。これは何処に入るんですか？

赤羽　借金が過剰だった。これが出発点でしたね。それなのに国は国債の増発は止めない。銀行はロクに審査もせずにカネを供給し、過剰設備を創り出してきた。それに雇用も増やしてきた。国の景気対策に期待していればなんとか良くなっていくと思っていた。

司会　バブルがハジケたのは、株が八九年、土地がその一年遅れでしたね。それからまだ十年も続けていたんですね。

赤羽　企業が危機を本当に認識したのは、九八年のアジア金融危機からです。出発点はタイ、それから韓国、インドネシア、マレーシア、日本では山一・北拓が潰

れた。真剣になったのはそれからです。企業がリストラを死に物狂いで始めたのは九〇年代後半で、それまでは国の景気対策頼みから抜け出してません。

司会　運を掴んでいく勘、運を創り出す勘は凄い。

赤羽　前回の衆院選の結果を世界が「エレクトーラル・ジーニアス（選挙の天才）だと評価しましたが、今までの主流派とは反対を行くんだという政治姿勢がその時の経済の状況に合っていたのだと思います。まさに「人の行く 裏に道あり 花の山」（証券格言）ですね

石川　インフレ待望論とか、インフレ目標を立ててやろうという目論見はありませんか？

赤羽　賃金を抑えてますからインフレにはならないんですね。賃上げといっても今まで下げた分上げる程度でしょうから。またこれからインフレを起こすような賃上げはないでしょう。

司会　**「設備投資主導の景気上昇」**を赤羽さんは力強く謳っておられますが、久しぶりの懐かしい言葉ですね。

赤羽　先日毎日新聞の週刊誌「エコノミスト」の編集部から電話で、現在の好景気は戦後最長を記録しそうだが、何と名付けるかと尋ねられたのです。日本の神話では、神武、岩戸、イザナギ、イザナミまでは遡れるけどそれ以前はないんですね。嬉しいギブ・アップです。

設備投資は今後も増勢を維持すると期待できます。景気のエンジンが快調に回転している限り、先行き明るく展望できることは間違いないと思います。

司会　力強い明るい話で座談会をお開きにさせてもらいます。ご参集ありがとうございました。心から御礼申しあげます。ご健康とご活躍をお祈りします。

略　歴

石川忠志　東大工学部　建築学科卒　竹中工務店
設計部　元竹中不動産　専務取締役
赤羽隆夫　東大経済学部卒　経済企画庁　事務次官
元慶大教授　現評論家　景気探偵（商標登録）
高橋景一　東大理学部　生物学科卒　東大名誉教授
元国際基督教大学教授　動物学専攻